

就労支援員・就労準備支援事業従事者養成研修

# コロナ禍での就労支援

大田区 生活再建・就労サポートセンターJOBOTA  
(社会福祉法人やまと福祉会) 佐藤 正浩

# 大田区 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA（ジョボタ）

■JOB+OTAの造語です。

・事業主体 - 大田区

大田区は東京都の南東部に位置し、  
人口約72万人。  
羽田空港が立地する東京の玄関口。  
臨海部の物流拠点や、機械・金属加工等  
の町工場が集積する工業地、にぎやかな  
商業地や、住宅地など多様性をもつ  
「東京の縮図」。



# 概要——駅近の民間ビル 月～土曜日開所

- ◇運営：社会福祉法人やまて福祉会が受託・運営
- ◇名称：大田区 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA（ジョボタ）
- ◇場所：**JR大森駅から徒歩2分 民間ビル6階**
- ◇開所：**月曜日から土曜日（祝日除く）10:00～18:00。**
- ◇事業：**自立相談支援、家計改善支援、就労準備支援を一体実施**  
**無料職業紹介所（無料職業紹介所許可番号 13-ム-300091）**
- ◇体制：**20人**（所長、主任相談員、相談員、就労支援員・就労開拓員、  
家計改善支援員、就労準備支援員、事務員）
- ◇資格：社会福祉士、精神保健福祉士、社会保険労務士、ファイナンシャル・プランナー、キャリア・コンサルタント、ケアマネジャーなど

# JOBOTAの就労支援の概況

## ■ 支援実績

	2年度
新規相談受付件数	5,886人 元年度の3.8倍
就労支援プラン件数	247件
就労者数	140人

- ・空港関連産業、飲食・サービス業等が長期休業
- ・若者の派遣就労等、不安定雇用による相談急増
- ・多くの企業が採用中断したため求人開拓員の企業訪問は自粛

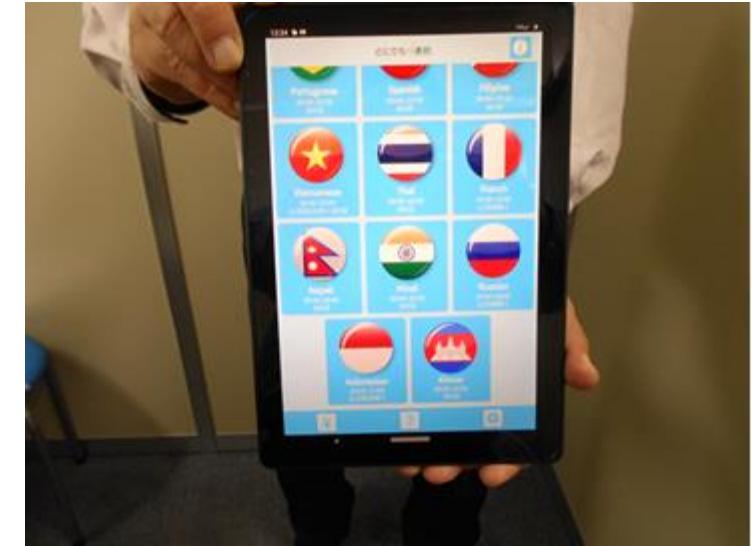


3年度
<ul style="list-style-type: none"><li>・毎月の新規相談数は200件超。住居確保給付金相談が約半数。</li><li>・無料職業紹介所では、物流倉庫業、清掃業等を中心に協力企業求人を紹介。</li><li>・ハローワーク大森は徒歩圏内。月2回の支援調整会議に職員2名が出席。</li><li>・高齢者の就労支援は、独自求人と区社協の運営する「いきいき仕事ステーション」の求人を活用。</li></ul>

# .コロナ禍での就労支援

## 1. 「就労支援」はおおむね、住居確保給付金制度に一体化の傾向

- ・離職者も休業・減収者も、**すぐの転職は困難**で社会状況の回復まちとなる方が多くを占めた。
- ・外国籍の方など、申請時には【**多言語通訳タブレット**】を活用したが、詳細把握が困難な相談者も少なくない。



## 2. 個別就労支援で変化があった点

- ・**高齢者の就労相談増加** ⇒**協力企業求人**を活用し、面接同行。70代、80代も清掃業を中心に就職達成。
- ・**10代、高校中退者の相談**。就労意欲喚起 ⇒**在学中からのつなぎ、居場所づくり**、家族の理解が得られるよう環境調整を行いながら本人と試行錯誤。

### 3. アウトリーチ／ネットワークする就労支援

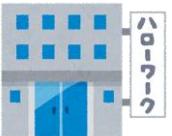
#### ◆入口：なかなか相談に来られない方に向けて、出張相談会

①区主催の弁護士による「子育て世帯の離婚と養育費の相談会」とワンストップで、ひとり親となつた場合の生活、就労相談を実施。今年度は年4回。高い相談ニーズ。

②団地での「フードドライブイベント」に合わせ、出張相談。こども食堂はじめ地域力を集めた「場づくり」の一環として相談員を派遣。



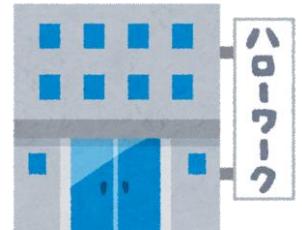
その際、地域で行われている取り組みを知ることができた！



- ・子育て中の方の就職準備の為、団地内の配食サービスの現場で就労体験
- ・たとえばその後の就職活動の段階でJOBOTAに来ていただく等、提案

#### ◆拠点：就労支援拠点のひろがり

- ・ハローワーク大森本庁舎以外に、区庁舎内にあるハローワーク相談コーナーの活用。（ともに生活保護受給者等就労自立促進事業）。アクセスしやすさ、個別支援の手厚さが向上。



#### ◆出口：あらたな雇用の創出

- ・新設のソーシャルファーム事業者と連携し、就労困難者の採用へ向けた取り組み開始。クリーニング事業を行う民間企業で、採用前実習、面接同行を進めています。

## 4. 就労相談で直面する不安を共有。ミドルマネージメントの強化。

### ◆ 「就職先がない」、「転職しても先が見えない」という不安、限界の声に向き合う。

長引く日常の不安に向き合うなかで職員も疲弊。

所長、主任相談支援員以外のサポート機能が必要になった。

- ① **工程管理担当** × 個人情報管理チーム、家計改善チーム、就労準備チームと協働  
チーム毎のミーティングに参加し、**一体型運営の業務フロー**の見直し

- ② **危機管理担当** × 住居確保給付金チーム・就労支援チームと協働

**書類申請にかかりきりで、個別アセスメントが遅れがちな状況。**

**緊急対応を焦る時ほど一旦、スローダウン** ⇒体制を整え、複数の目で支援  
直接事務をしない精神保健福祉士の視点で、背景にある自殺念慮、  
アルコール依存、ひとり親で孤立等の声を抽出、フォロー。

- ③ **フラッグ会議** (主任 + 求職活動状況報告担当者)

求職活動状況報告に書かれた「もう限界です」、「眠れない」等の  
メッセージを見逃さず、定期確認。

**支援経過記録時に赤旗団を立て継続フォロー**

◆ 必要に応じ、所内ケース検討、**精神科医スーパーバイズ**につなぐ。

◆ **支援の取り組みを小ユニットで「ふりかえり、共有」する流れを整備。**



# JOBOTAの就労準備の概況

## 新メニュー・リニューアル実施したこと

- ① 「おおたさんぽ」（外出プログラム 実行と企画会議）
- ② 「ペン習字」（電話を受けメモをとる練習、季節装飾）
- ③ 「リラックス・ワーク」（軽運動、武術、ボールゲーム）
- ④ 「しごと・生活キャリアカウンセリング」（職業興味検査を中心に3回）
- ⑤ 「PC教室」（Excel、Word、個別卒業制作）

## 新メニューの取り組みで大切にしていること

- ① 長期利用の方が多いため、ショートサイクルを回し、進捗ステップを確認
- ② 教わるだけがない、利用者からのアウトプットやフィードバックを重視
- ③ 各メニューに社会人コミュニケーション要素を導入
- ④ プロジェクトチーム制で運営

R2年11月より、**徒歩1分の場所に  
分室を設置。**過密を避けて運営。  
内職作業が需要減で中止となり・・・

プログラム①

## パソコン教室

パソコンに触れたことのない人も大歓迎です。

EXCEL コース…表計算や簡単な関数について学習

毎週土曜日 午後 10時～11時

WORD コース…文字入力や文章づくり

毎週土曜日 午後 2時～3時

場所:JOBOTA分室(アトラスビル)



プログラム②

## おおさんぽ

毎回テーマを決めて大田区を中心に散策します。

歩き慣れた道のりでも、新たな発見があるかもしれませんよ。

隔週木曜日 午前 10時～11時30分

プログラム③

## 仕事・ボランティア体験

施設の清掃・スーパーの品出し等、お仕事体験を実施しています。汗を流し、爽快な気分を味わいませんか。



プログラム④

## リラックス・ワーク

身体を動かすことで緊張をほぐします。  
運動嫌いな方も気軽に参加できます。

隔週木曜日 午前 10時～11時00分

プログラム⑤

## 5行日記

日々の出来事を日記に綴ってみませんか。

新たな発見があるかも知れませんよ。



プログラム⑥

## ペン習字

最近文字を書きましたか?

文字を書く機会が減っていませんか?

就職に向けて、自信を取り戻しましょう。

毎週月曜日 午前 10時～11時30分

場所:JOBOTA分室(アトラスビル)

プログラム⑦

## キャリア・カウンセリング

専門のカウンセラーが VPI 職業興味検査を用いてキャリア・カウンセリングを行います。あなたの強みを発見してみませんか。



プログラム⑧

## 社会人マナー講座 (準備中)

就職に向けた社会人としてのマナーを学びませんか。

プログラム⑨

## フリースペース (準備中)

JOBOTA 分室をフリースペースとして開放しています。  
プログラムを準備してお待ちしております。

毎週火曜日・金曜日 午後

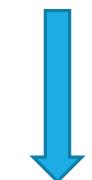
場所:JOBOTA分室(アトラスビル)

おおたさんぽ で P D C A

企画会議

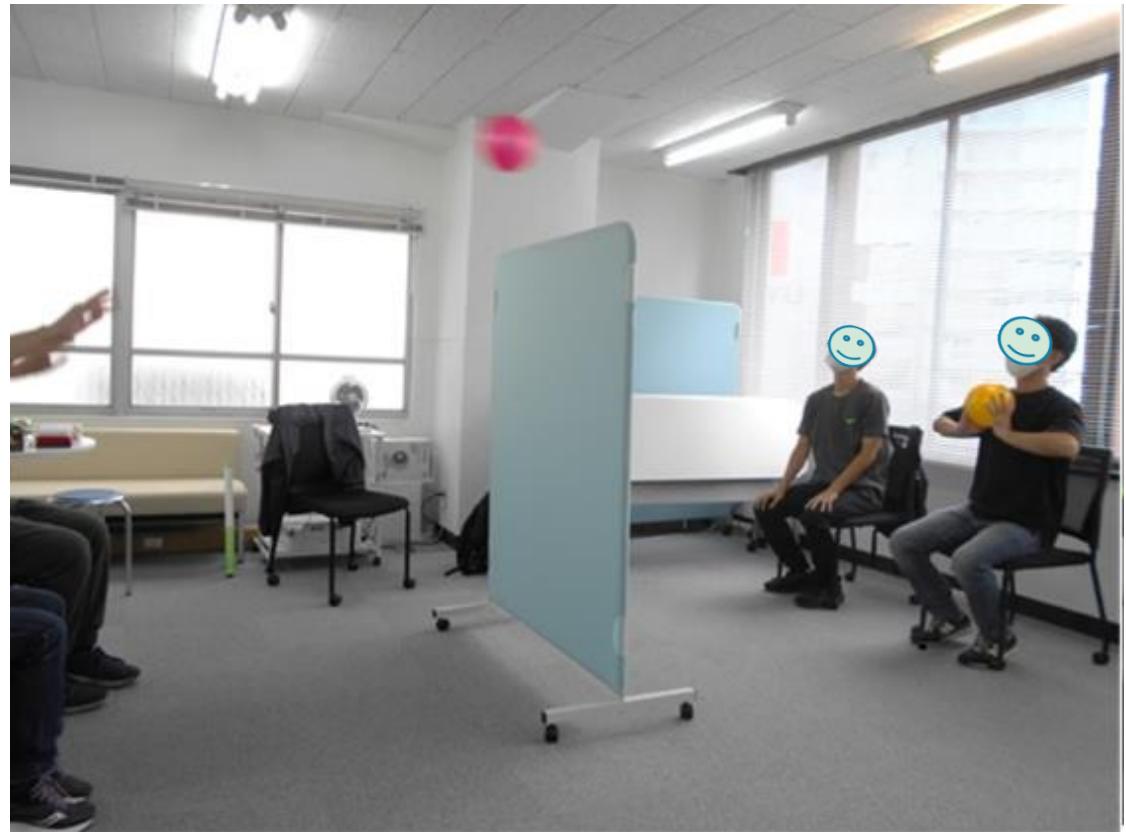
実行

ふりかえり



成果物製作





## リラックスワーク

できるところから



## ボールゲームで場づくり

見えない相手にパス



- ・OKです！
- ・承認しあう機会

- ・受け手に声をかける等  
ルールを自分たちで決める

## コミュニケーション

- ・フィードバック
- ・失敗は工夫へ

# 就労準備の課題

## 1. 参加者の減少－周知の工夫、ひきこもり状況の方へのアプローチ

- ①保健所主催イベントに参加（ひきこもり・生きづらさ茶話会、ひきこもり家族教室）
- ②80－50問題など、地域包括支援センター等への事業周知
- ③バス広告、自治体twitter等で家族や地域に周知

## 2. 分室運営になり、全体の目が行き届かなくなった

- ①就労準備チーム会議
- ②都度、ふりかえりの機会をもつ

## 3. まだできていないこと、再開できていないこと

- ① フリースペース
- ② 社会人マナー講座
- ③ 内職作業（工賃発生）
- ④ ほっと一息茶話会
- ⑤ 緊急事態宣言中の一部、就労体験

◆一体型運営であるため、業務量の多寡を見て職員配置が必要

## 就労訓練事例 認定就労訓練利用者 20代 女性 「復職の支えになったこと」

福祉施設で週3日の雇用型訓練。コロナ禍で心身不調となり部屋に閉じこもる。職場とも連絡が取れなくなり、通院再開に半年前後かかるが、徐々に回復。本人の意向を職場にきちんと伝えることで契約更新。週1日ペースで休まず継続。「長く閉じこもっていたあと、外に出たら目に入るものがたくさんあり、物欲がでてきた。お金を稼ぐって大切なんだ。こもっていた時にも、ささえあう友達がいて、互いに話をきいてもらい、**生きていいんだって思えた**。自傷する人もいるが、そうせずに幸せになろうと思った」。

**キーワード** 外出困難、雇用型訓練先の理解、ささえあって生きる、個性の受容、欲求

## 就労体験事例 就労準備支援利用者 20代 女性 「住まいを失うなかで就労開始」

世帯で住居確保給付金を受給していた。姉の独立をきっかけに、3年ぶりの来所。就労経験はないが、アルバイト応募を開始したため、協力企業で3日間の就労体験を実施。ところが途中、家族で住居を喪失し、ホテルを転々としていることが判明。もともと担当職員からも転宅支援を申し出ていたが、「大丈夫です」と回答があった。さいわい仕事も新しい住居もきまつたものの、**なぜSOSを出せないのか？**本人は下のきょうだいや、不安定就労の続く母親へのヤングケアラーの役割を担っていた。

**キーワード** 援助希求の低さ、家族支援、ヤングケアラー、居住支援